

# 中学校第3学年 国語科学習指導案

日時 平成18年10月13日(金) 公開授業  
 学級 第3学年 男子4名 女子3名 計7名  
 指導者 教諭 欠端 真由美

本単元における「読むこと」の指導内容  
 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。(ウ)

1. 単元名 状況に生きる  
 教材名 「挨拶 原爆の写真によせて」

## 2. 単元について

### (1) 生徒の実態

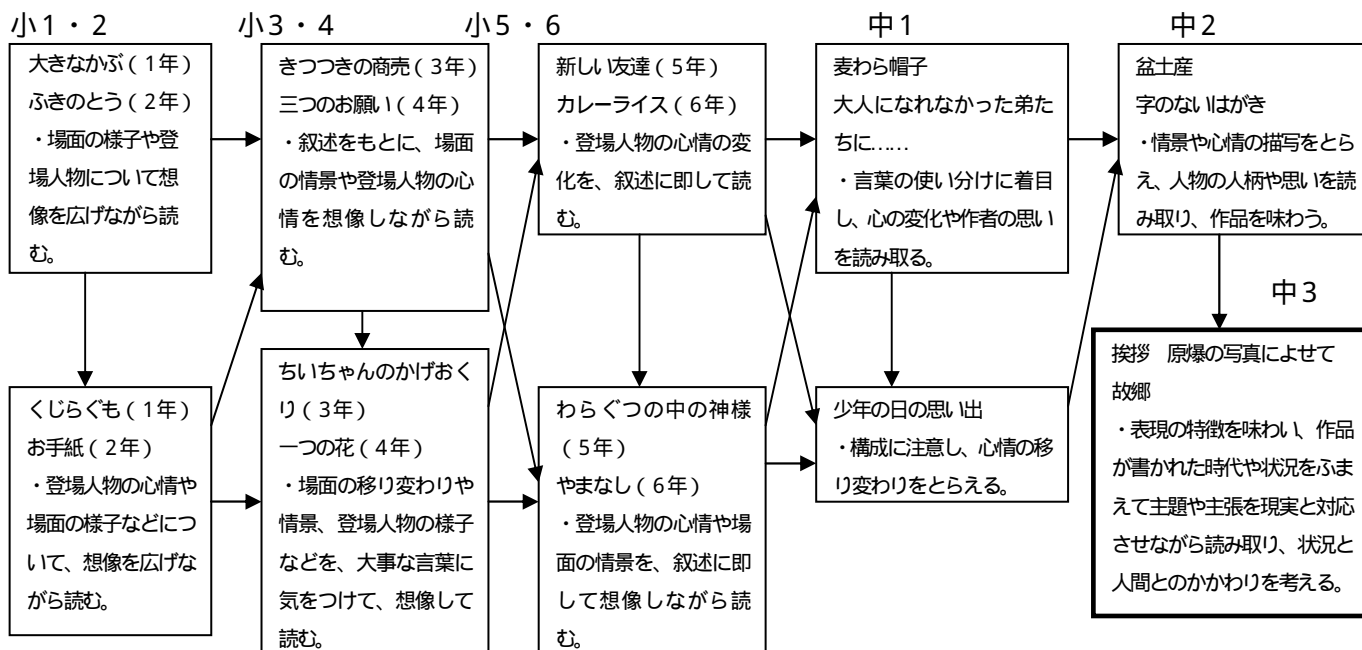
国語の学習には意欲的であり、特に詩や小説などの文学的文章に興味・関心を示す生徒が多い。このような文章を音読することを好み、音読や朗読には意欲的に取り組む。教材に素直な気持ちで向き合い、主題や作者の思いをとらえようという気持ちが強い。

これまでの文学的文章を教材とした学習において、登場人物の言葉や行動から人柄や心情をとらえることを重点的におこなってきた。さらに、情景描写を手がかりにして心情の変化を読み取る学習にも取り組んできた。登場人物の心情をとらえることはできるが、断片的かつ浅い理解にとどまる傾向がある。また、自身の生活からかけ離れた事象について考え、深めていくのは苦手な生徒が多い。これらは、語彙や知識、仲間同士の練り合いが不足しているのが原因と考えられる。この点を改善するべく、辞書の活用や話し合い活動の充実などに取り組んでいるが、まだ目に見える効果は現われていない。

課題解決学習においては、ほとんどの生徒が意欲的に自力解決に取り組んでおり、見通しを持って学習しようとしている。考えをまとめるのに時間がかかる生徒が多いが、試行錯誤しながらも課題解決に真剣に取り組んでいる。他の考えを聞きながら、よいところを取り入れ学ぼうとする姿勢が見られる。しかし、個人差が大きく、課題の自力解決において、かなり支援を要する生徒もいるのが現状である。

### (2) 教材について

#### 【単元系統図】



学習指導要領における「読むこと」の指導内容(ウ)に関わる学習は、大きく四つの段階から成ると考える。

読むことの「楽しさ」を味わう：小学校1・2年

「叙述」を基に想像しながら読む：小学校3・4年 「叙述」を味わいながら読む：小学校5・6年

文章の「主題や構成」をとらえる：中学校1年

「表現の仕方や文章の特徴」に注意して読む：中学校2・3年

本単元は、この系統の最終段階であり、「表現の特徴を味わい、状況と人間とのかかわりを考える」ことが目標となる。「挨拶 原爆の写真によせて」は詩であり、その凝縮された表現に込められた意味を注意深く読み、作者の主張を理解し、自分の考えを深めることが重要である。義務教育の最終学年であり、文学的文章の学習としては本単元が最後になる。これまでの学習を生かしながら、表現の仕方に注意して読むことを深化させる学習を目指したい。

本単元における「状況」とは、戦争や社会の大変革といった大きなうねりを指す。そこにおいては個人の力は非常に小さく、時に無力に感じられることもある。その中で、もがき苦しみながら生きようとする人間の姿が描かれている作品が教材として取り上げられている。その「状況」は、特殊なことのように思えるが、実は誰もがそのような状況に陥る可能性があり、決して他人事とは言えないものである。「挨拶 原爆の写真によせて」では、広島への原爆投下を題材としているが、犠牲者への鎮魂歌にとどまらず、過去を教訓として、我々がこれからをどう生きるかという問題を提起している。現実の危機意識のなさに対する鋭い警鐘は、読者をはっとさせるが、その衝撃を生かしながら、暗示的な表現に切り込んで考えを深めることが重要な点である。「私たちは今ある平和が永遠に続くと思っているが、そんな保証はない。だからこそ、おかれている状況を把握し、自分たちの手で平和を守っていかねばいけぬ」という作者の思いは、現在の社会状況において非常に重いメッセージとなっている。いずれ社会の担い手となる生徒には、他人事としてではなく、自分たちがこれから構築していく社会に直接関わる問題だということを考えさせていきたい。

### (3) 指導にあたって

- 原爆についての事前学習をおこない、より具体的にイメージできるようにする。
- 詩に一貫して流れている主題をとらえるために、表現を意識しながら詩を繰り返し読ませる。
- 効果的な表現や語句に着目させ、その表現の意図をとらえさせながら、詩の主題にせまらせる。
- 1年次から取り組んできた音読・朗読を取り入れ、学習に意欲的に取り組めるようにする。
- 作者の思いと現実の世界の在り方を対応させて、そのことに対する自分の考えをまとめさせる。

## 3. 単元の目標及び評価規準

### (1) 単元の目標

#### 【国語への関心・意欲・態度】

- ・現代の危機意識のなさについて書かれた詩を読み、人間や社会の在り方について考えている。

#### 【読むこと】

- ・表現や語句に着目し、詩に一貫して流れる作者の思いや、主題を読み取る。
- ・表現されている作者の主張や意見を、現実の世界の在り方と対応させながら理解する。

#### 【言語についての知識・理解・技能】

- ・詩の語句や表現に込められた意味を注意深く読み取る。

### (2) 評価規準

国語への関心・意欲・態度	現代の危機意識のなさについて書かれた詩を読み、現代に生きる人間や社会の在り方について考えようとしている。
読むこと	・詩の語句や表現を注意深く読み、表現の意図をとらえている。 ・表現にこめられた作者の思いや詩の主題を読み取っている。
言語についての知識・理解・技能	詩の中の語句や表現に込められた意味を注意深く読み取り、作者の主張を理解する。

## 4. 指導計画(全4時間)

次	時	学習活動	評価規準
1	1	・資料を読み、原爆についての知識を得て、イメージを広げる。 ・詩を繰り返し音読し、印象的な表現を挙げる。	(関)原爆について、積極的に知ろうとしている。 (読)状況を自分なりに想像しながら読んでいる。
	2	・難語句を辞書で調べる。 ・「顔」「りつぜん」というキーワードをもとに、作者の思いを読み取る。	(言)語句について理解し、詩の中での意味を考えている。 (読)作者の思いを、表現に即してとらえている。

3 (本時)	・「安らかに」と「やすらかに」の表現の違いを手がかりに、表現の意図を読み取る。	(関) 詩を繰り返し読みながら、表現の意図をとらえようとしている。 (読) 表現の意図をとらえ、作者が詩にこめた思いをとらえている。 (言) 簡潔な語句や凝縮された表現の意味をとらえている。
4	・詩の主題をとらえる。 ・作者の主張に対する自分の考えをまとめる。 ・原爆に関連した他の詩を読む。	(読) 作品の主題をとらえている。 (読) とらえた主題を、現実の世界の在り方と対応させながら考えている。

## 5. 本時の手立て

本時は、第五連～第七連が学習場面となる。表現の意図するところについて考え、そこに作者の思いが込められていることに気づくことが重要である。

「写真」という具体物が登場する前半部に比べ、生徒が比較的苦手とする抽象的な表現が多く、感覚的な読み取りになりがちな部分である。そこで、「安らかに」(第五連)、「やすらかに」(第七連)という漢字とひらがなの使い分けをしている表現を取り上げ、作者がそのような表現をした意図を考えさせたい。その際、生徒がより主体的に学習に取り組めるよう、課題解決学習を行う。本時では、課題解決のための手立てとして、表現を深く読もうとすることが大切だと考える。そのために、「見通す」段階で、課題解決の手がかりは詩の中にあることを確認し、技法を用いた表現や暗示的な表現の意味を考えさせることで、課題にせまらせたい。

また、「考える」段階では、グループ学習を行う。皆で意見を出し合い、試行錯誤しながら考えを深める時間として設定する。学習を進めるうえで支援を要する生徒もいるため、他の考えを聞きながら、自分なりの言葉で表現できるよう配慮していきたい。

さらに、「深める」段階では、課題の自力解決の場として個人作業の時間を設定する。グループで話し合ったことを自分の中で深化させ、自分の言葉でまとめる場面となる。ここではまとめたものを随時評価しながら進めることで、生徒の意欲を喚起していきたい。支援を要する生徒には個別指導するほか、他の生徒のまとめたものを参考にさせて考えを深めさせたい。

## 6. 本時の指導

### (1) 目標

第五連～第七連の表現の意図をとらえ、作者が詩にこめた思いをとらえる。

### (2) 評価規準

#### 【国語への関心・意欲・態度】

詩を繰り返し読みながら、表現の意図をとらえようとしている。

#### 【読むこと】

表現の意図をとらえ、作者が詩にこめた思いをとらえている。

#### 【言語についての知識・理解・技能】

簡潔な語句や凝縮された表現の意味をとらえている。

## (3) 展開

	学 習 内 容	生 徒 の 学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
つ か む  7 分	1. 教材を音読する。  2. 本時の学習課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習内容を想起しながら、詩を音読する。</li> <li>・第五～七連から、表現の仕方に工夫が見られる部分を指摘する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現技法を用いている表現</li> <li>・暗示的な表現</li> <li>・「安らかに」と「やすらかに」の使い分け</li> </ul> </li> <li>・「安らかに」と「やすらかに」は同じ意味で使われているのか考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>同じ意味ではなく、作者が意図的に書き分けているようだ。</li> </ul> </li> <li>・学習課題をつかむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別</li> <li>・既習事項の復習(表現技法)も兼ねる。</li> <li>・作者の意図があることに気づかせる。</li> </ul>	観 察
		「安らかに」と「やすらかに」の意味の違いを探り当てよう。		
見 通 す  10 分	3. 課題解決の手立てを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうすれば課題解決ができるか考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・詩の中の表現を読めばわかる。</li> <li>・表現技法に注目してみる。</li> <li>・辞書で意味を調べる。</li> </ul> </li> <li>・課題解決の手がかりになりそうな表現にサイドラインを引く。</li> <li>・線をひいた部分を全体で確認し、取り上げる表現をしばりこむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの学習活動を想起させ、さまざまな方法を考えさせる。</li> <li>・グループで話し合う指示をする。</li> </ul>	発 言
考 え る  15 分	4. 表現の意図について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで、表現の意図について話し合う。</li> <li>・グループで話し合ったことを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2グループによる話し合い。</li> <li>・リーダーが司会をし、それぞれの意見について検討し、まとめる。</li> <li>・話し合いの状況に合わせて支援する。</li> <li>・項目ごとに書いたものを黒板に貼り出す。</li> </ul>	観 察 発 言
深 め る  15 分	5. 「やすらかに」の意味を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「やすらかに」の意味を考えて、ノートにまとめる。</li> <li>・意見を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・安易に、安直に</li> <li>・たやすく</li> <li>・いとも簡単に</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートに書いたものを持ってこさせ、評価する。</li> <li>・指名による発表。</li> <li>・古語辞典を用いて、解決された内容を補足する。</li> <li>・本時の活動の評価をする。</li> </ul>	ノ ー ト
ま と め る 3 分	6. 本時の学習内容を振り返る。  7. 次時の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の意図を確かめながら音読する。</li> <li>・次時の学習内容を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別</li> </ul>	観 察

